

めぐみイエス・キリスト教会

2024年11月24日(日)第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第733号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌235「罪 重荷を除くは」 p. 356

【交読文】 No.48 イザヤ書35章 p. 917

【賛美Ⅱ】 新聖歌448「神より生まれし者よ」 p. 722

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「ラッパを吹き鳴らせ」

【聖書朗読】 ルカの福音書7章29節～35節(新約p. 125上段)

【礼拝説教】 《すべての知恵の子らとは？》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄与」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書7章29節～35節)

7:29 ヨハネの教えを聞いた民はみな、取税人たちでさえ彼からバプテスマを受けて、神が正しいことを認めました。

7:30 ところが、パリサイ人たちや律法の専門家たちは、彼からバプテスマを受けず、自分たちに対する神のみ心を拒みました。

7:31 それでは、この時代の人々を何にたとえたらよいでしょうか。彼らは何に似ているでしょうか。

7:32 広場に座り、互いに呼びかけながら、こう言っている子どもたちに似ています。『笛を吹いてあげたのに、君たちは踊らなかった。弔いの歌を歌ってあげたのに、泣かなかった。』

7:33 バプテスマのヨハネが来て、パンも食べず、ぶどう酒も飲まずに
いると、あなたがたは『あれは悪霊につかわれている』と言い、
7:34 人の子が来て食べたり飲んだりしていると、『見ろ、大食いの大
酒飲み、取税人や罪人の仲間だ』と言います。
7:35 しかし、知恵が正しいことは、すべての知恵の子らが証明しま
す。」

●ポイント1. 「取税人たちでさえ」、また「パリサイ人は」とは？

※ルカの福音書3章12節～13節「ヨハネの勧め」 (新約p.113)

3:12 取税人たちもバプテスマを受けにやって来て、ヨハネに言っ
た。「先生、私たちはどうすればよいのでしょうか。」

3:13 ヨハネは彼らに言った。「決められた以上には、何も取り立てて
はいけません。」

※マタイの福音書3章5節～7節「厳しい叱責の言葉」 (新約p.4)

3:5 そのころ、エルサレム、ユダヤ全土、ヨルダン川周辺のすべての
地域から、人々がヨハネのもとにやって来て、

3:6 自分の罪を告白し、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けてい
た。

3:7 ヨハネは、大勢のパリサイ人やサドカイ人が、バプテスマを受け
に来るのを見ると、彼らに言った。「まむしの子孫たち、だれが、迫り
来る怒りを逃れるようにと教えたのか。」

●ポイント2. 「知恵」とは？「知恵の子ら」とは？

※箴言2章1節～5節「103回も書かれた言葉」(旧約p.1093下段真中)

※第 I ペテロ1章8節「使徒シモン・ペテロの確信から」(新約p.465)

1:8 あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛してお
り、今見てはいないけれども信じており、言葉に尽くせない、栄えに
満ちた喜びに躍っています。

◎先週のメッセージ【一番小さな者とは？】

《「あなたがたは行って、自分たちが見たり聞いたりしたことをヨハネに伝えなさい。」と主イエスは、ヨハネの弟子たちに伝言を与えました。

それゆえ彼らは、主と同行して来た群衆に尋ねたかと思われます。その中には、主イエスによって癒された人々が数多くいたからです。

彼らの生きた証しこそ真実であり事実なのですから、ヨハネの弟子たちは、主イエスが成された御わざの証しに驚嘆したと思われます。

さて、主イエスは、バプテスマのヨハネのために、ついて来た群衆と弟子たちに、ヨハネがどのような人物であるのかを語り始めました。

「あなたがたは、何を見に荒野に出て行ったのですか。預言者よりもすぐれた者をです。この人こそ、『見よ、私は私の使いをあなたの前に遣わす。彼は、あなたの前にあなたの道を備える』と書かれているその人です。」と。これは、マラキ書からの引用です。さらに、主は、

「しかし、神の国で一番小さい者でさえ、彼より偉大です。」とも言われたのです。これは、主イエスの十字架と復活と聖霊降臨が大きく関わっています。オリーブ山で昇天される直前に、主は、弟子たちに、「聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、私の証人となります。」と、新たな使命を授けられたのです。そして、これこそが、今、現在の弟子でもある私たちが目指すものなのです。神の国は、霊的な意味においては、もうこの地上に存在しています。

私たち一人一人は、確かに一番小さな者かも知れませんが、主イエス・キリストの「福音」を、「良き知らせ」を伝えることが出来るのです。

その働きこそが、バプテスマのヨハネの働きよりも偉大であると、主は言われるのです。そして、私たちが証しするべきことは、後に学べる難しい教理ではなく、ヨハネの弟子たちが聞いたように、主に出会ったこと、癒されたこと、すなわち「生きた証し」をするのです。》

◎お知らせ

※12月1日のアドベント第一主日礼拝は、平常通り行ないます。